

平成 2 年度支部総会報告 (1)

九州支部

日時：平成 2 年 5 月 11 日 (15:30~19:30)

場所：九州電力㈱

議題：

1. 平成元年度事業報告

(1) 活動報告 (表 1)

(2) 会員の増減

平成 2 年 2 月現在の会員数は次のとおりである。なお

() 内は平成 1 年 2 月現在の数である。

- 正会員 135名 (130名)
- 学生会員 5名 (5名)
- 賛助会員 A 8社 (7社)
- 賛助会員 B 7社 (3社)

表 1

	日 時	場 所	参加者	テ ー マ	講 師
会 議	1年 3月20日	九 電	6	元年度活動方針案の作成 (幹事会)	
	"	九 電	7	" (運営委員会)	
	4月25日	九 電	21	元年度 支部総会	
講演会	3月10日	福岡リーセントホテル	15	3学協同講演会 (学術会議における最近の話題について, 他)	
講演会	4月25日	九 電	21	システムアプリケーション体系について	I B M西部営業本部 S E 部長 渡辺欣行
見学会	8月4日	ゼンリン	16	住宅地図作成工場の見学	
研究会	9月22日	九 電	19	推論の並列化	九州大学理学部 助教授 宮野 悟
研究会				ガイドウェイパス・システムについて	西日本鉄道㈱自動車局 佐々木希
講演会				図形処理とスケジューリング	九州工業大学工学部 教授 黒須頭二
研究会	12月1日	安川電機	15	電子回路 CAD における自動記憶アルゴリズムについて	九州工業大学工学部 助教授 永松正博
研究会				二腕マニピュレータの衝突回避と分散システム	㈱安川電機製作所研究所 武田淳男
講演会				ゲーム理論について	九州産業大学経営学部 助教授 村田省三
研究会	2年 2月16日	九 電	18	不確実性下の枯渇資源の最適管理と価格モデル	佐賀大学経済学部 教授 時政 昴
研究会				原料荷揚げシステムにおける AI 適用事例	新日鉄情報通信システム㈱西日本支社 松田正義
講演会				線形計画法に関する最近の動向について	九州大学工学部 助教授 今井 浩
その他				支部ニュースの発行 (4回)	

2. 平成元年度会計報告

一般会計

(単位：円)

収支	項 目	予 算 額	決 算 額
収入	前年度繰越金	826,265	826,265
	本部交付金(年間会費)	371,000	404,800
	本部交付金(講演会)	18,000	18,000
	利 息	11,000	13,226
	合 計	1,226,265	1,262,291

支出	会 議 費 (総会)	120,000	91,394
	運営会議費	30,000	14,000
	幹事会議費	40,000	12,000
	研究活動費		
	研究会費 (含講演)	175,000	184,665
	見 学 会	10,000	1,957
	通信運搬費	110,000	117,555
	消耗品費	10,000	1,133
	そ の 他	5,000	3,599

	合 計	500,000	426,303
残高	次年度繰越金	726,265	835,988

中国・四国支部

3. 平成2年度事業計画

- 2年5月 総会, 講演会 (安川電機)
 8月 研究会 (九州大学, 九州電力), 講演会 (九州工業大学)
 10月 見学会 (九州電力 天山揚水発電所)
 11月 研究会 (九州工業大学, 西南学院大学, 住友金属工業)
 3年2月 研究会 (九州大学, 九州産業大学, 安川電機)

4. 平成2年度予算

収支			
収入	前年度繰越金	835,988	正会員 243,000 賛助会員 219,200
	本部交付金(年間会費)	462,200	
	本部交付金(講演会)	18,000	
	利息	11,000	
	合 計	1,327,188	
支出	会 議 費(総会)	110,000	
	会議費(支部長会議費)	70,000	
	運営会議費	30,000	
	幹事会議費	30,000	
	研究活動費		
	研究会費(含講演)	190,000	
	見学会費	10,000	
	通信運搬費	120,000	
	消耗品費	5,000	
	その他	5,000	
	3年度春季全国大会準備費	500,000	
合 計	1,070,000		
残高	次年度繰越金	257,188	

5. 平成2年度支部役員

- 支部長 藤野義一
 副支部長 横山 清, 岩本誠一
 支部運営委員 須永照雄, 児玉正憲, 松山久義, 山川典宏, 村上周太, 乾 全, 藤戸正行, 野村 武, 大山立雄, 清原和也, 松尾俊彦
 支部監事 田中謙一郎, 阿南信博

日時: 平成2年4月3日

場所: 中国電力榊

議題:

1. 平成元年度事業報告

(1) 総 会 1回

日時: 平成元年3月6日

場所: 中国電力榊

議題: 昭和63年度事業・決算報告

平成元年度支部役員選出

平成元年度事業・予算計画

その他

(2) 役員会 1回

日時: 平成元年3月6日

(3) 幹事会 2回

日時: 平成元年3月6日, 12月2日

(4) 講演会 3回 (内, 定例講演会1回)

1) 日時: 平成元年7月27日

場所: 広島県情報プラザ

演題: 問題解決の方法論と組織効率化

講師: 中野文平 (東京工業大学)

2) 日時: 平成元年12月14日

場所: 中国電力榊

演題: 合意形成に役立つ意思決定支援システム

(DSS) のあり方について

講師: 高井英造 (三菱石油榊)

(OR学会定例講演会)

3) 日時: 平成2年2月21日

場所: 中国電力榊

演題: しなやかなモデリング…大規模非構造問題

の構造化に対する人間とコンピュータの協同

システムの実現を目指して…

講師: 中森義輝 (甲南大学)

(5) 研究発表会 2回

1) 日時: 平成元年3月7日

場所: 近畿大学工学部

演題: マネージメント・ゲーム

講師: 権藤 元 (近畿大学工学部)

2) 日時: 平成2年1月31日

場所: 近畿大学工学部

演題: ロータス1-2-3によるORシートの紹介

講師：権藤 元（近畿大学工学部）

(6) シンポジウム 2回

- 1) 日時：平成元年10月6日
場所：日本興業銀行広島支店
演題：投資理論のOR
講師：浜村 章（広島大学工学部）ほか
- 2) 日時：平成2年2月15日
場所：中国電力㈱
演題：エキスパートシステムと数理計画法の接点
講師：久保田忠義（出光石油化学㈱）ほか

(7) 研究部会

- 1) 対話型OR研究部会
研究会 11回
- 2) エキスパート・システム研究部会
研究会 8回
- 3) 投資理論のOR研究部会
研究会 5回
- (8) 春季研究発表会実行委員会 2回

2. 平成元年度会計決算報告書

(1) 収支決算書

平成元年3月1日～平成2年2月28日（単位：円）

科 目	予 算	決 算	備 考
(収入の部)			
本部交付金	375,000	375,000	定例講演会費含む
預金利息	1,000	743	
その他			
① 合 計	376,000	375,743	
(支出の部)			
会議費	50,000	8,624	
講演会費	100,000	48,000	
研究発表会費	30,000	0	
研究懇談会費	20,000	12,772	
研究部会費	200,000	260,362	
見学会費	50,000	0	
通信費	70,000	45,562	
印刷費	50,000	48,000	
交通費	90,000	10,000	
事務費	35,000	36,885	
雑費	73	600	
予備費	1,000	0	
② 合 計	696,073	470,805	
③ 当期運営残高		△95,062	①-②
④ 前期繰越金		320,073	
⑤ 次期繰越金		225,011	③+④

(2) 貸借対照表 平成2年2月28日現在（単位：円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	0	前期繰越金	320,073
預 金 (1)	225,011	当期運営残高	△95,062
合 計	225,011	合 計	225,011

(1) 広島銀行 広島支店

3. 平成2年度事業計画

- (1) 総 会 1 回
- (2) 役 員 会 若干回
- (3) 幹 事 会 若干回
- (4) 講 演 会 4 回
- (5) 研究発表会 3 回
- (6) ORサロン 若干回
- (7) シンポジウム 2 回
- (8) 研究部会 若干回
- (9) 会員増強活動
- (10) そ の 他

4. 平成2年度予算

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越金	225,011	会 議 費	30,000
本部交付金	375,000	講 演 会 費	80,000
預金利息	500	研究発表会費	20,000
		ORサロン費	40,000
		シンポジウム費	100,000
		研究部会費	150,000
		通 信 費	70,000
		印 刷 費	50,000
		交 通 費	35,000
		事 務 費	20,000
		予 備 費	5,511
合 計	600,511	合 計	600,511

5. 平成2年度支部役員

- 支 部 長 権藤 元
副支部長 梶田賢作, 田中 博, 広瀬圭介
支部評議員 青木兼一, 石井博昭, 石田徳孝, 奥村寛, 尾崎俊治, 河合 一, 久保田洋志, 坂和正敏, 佐藤洋一, 住山哲夫, 成久洋之, 浜岡 尊, 平木秀作, 藤永靖彦

支部監事 玉廣靖司, 和田 弘
支部幹事 尾崎正亮, 海生直人, 門田博隆, 金子雅彦, 金指正和, 神川正博, 桑原兵二郎, 椿 康和, 奈良宏一, 松富達夫, 松廣 斎, 向井 勉, 光藤 昇, 山田 茂

関 西 支 部

日時：1990年4月21日(土) 14:00~17:00

場所：神戸商科大学

議題：

1. 平成元年度事業報告

(1) 総会・記念講演会の開催

日時：平成元年4月22日

場所：関西文化サロン

記念講演 山川栄樹 (川崎製鉄)

「エキスパートシステム活用の現状と今後の課題」

石井博昭氏 (大阪大学)

「多目的スケジューリングについて」

- 総会議題
- 1) 平成元年度事業報告・決算
 - 2) 平成2年度事業計画・予算案
 - 3) 支部役員選任
 - 4) その他
 - ・会員増強の件
 - ・OR企業サロンの関西での開催の件
 - ・秋季研究発表会の関西での開催の件
 - ・自動制御学会と共同でシンポジウムの開催の件

(2) 支部研究講演会の開催

第1回 平成元年6月24日

大阪会場

大学における情報ネットワークの構築

長谷川利治 (京都大学)

アメリカにおけるエキスパートシステムの現状

Judy Bayard Cushing (エバグリーン大学)

第2回 平成元年10月26日

京都会場

1) Weakly k-linked graphs

岡村治子 (大阪市立大学)

2) グラフの連結度について 永持 仁(豊橋技科大)

3) An efficient ompensation-path finding

algorithm for a Large-scale grid array of

processors

小沢孝夫 (京都大学)

4) だれが一番強いカーグラフによる順位づけー

加納幹雄 (明石工業高等専門学校)

第3回 平成2年1月19日

奈良会場

1) On testing the rationality of expectations in the foreign exchange market

Colin McKenzie (大阪大学)

第4回 平成2年3月17日

大阪会場

戦略的情報システムと問題解決支援システム

辻 新六 (神戸商科大学)

販売情報システムの概念設計ーゼット社を事例にー

漆 晋平 (松山大学)

ゼット社における生産計画 小島敏宏 (和歌山大学)

情報・意思決定, そしてネットワーク

ー現場発想の情報システム化を進めるー

宮下 淳 (勤大阪中小企業情報センター)

(3) 研究部会の開催

1) 最適化とその周辺研究部会

数理計画法の理論と応用, 意思決定の手法, 人工知能・知織工学などに関連するテーマを主にとりあげ, 9回の研究会を開催して大学および企業の研究者の間での情報・意見交換を行なった. 毎回企業からの出席者が半数を上回り, この分野に対する関心が特に企業内で大きくなってきたと評価できる. 会場提供などで帝人, 住友金属, 松下電工, CSKの各社の協力を得た.

2) 確率・統計の応用研究部会

確率・統計のORへの応用に重点を置き, 三田出版会, 関西情報センター, 大阪大学工業会館, 関西大学, 奈良ラインハウスを会場にして合計5回の研究会(講演者数は9名)と1回の見学会(豊澤酒造)を開催した.

3) 情報検索とOR研究部会

情報検索に対するAI技法の適用の可能性に関して, 毎月1回, 大阪経済大学を会場にして情報検索およびエキスパートシステムに関する文献の輪読等を中心とする研究活動を行なうとともに「エキスパートシステムシェルXPT-IIによるアプリケーションシステム」をテーマにCSK総合研究所関西研究所を見学先とする見学会を開催した.

4) 情報化流通研究部会

情報システムの戦略的活用に関して, ㈱ゼットの

情報システムを事例にして4グループに分れて毎月1～2回の研究会を実施した。また、9月、11月、1月に芦大クラブを中心会場として3回の合同研究会を開催した。研究会の出席者は、毎回15～20名であり、毎回活発な議論が行なわれた。

(4) 見学会の開催

日時 平成2年2月22日

見学先 西宮酒造株式会社

参加者 15名

概要 FA化・CIM化の一環として最近導入された瓶詰工程の生産時点情報管理(POP)システムを中心とする酒造工程の見学を行なった。

藤井 進(福戸大学)

(5) 本部主催の「OR企業サロン」の関西地区で開催への協力

1989年10月12日(木)に花王㈱副社長渡辺正太郎氏をゲストスピーカーに迎えて(株)関西情報センターにおいて開催された本部主催の第3回OR企業サロンの開催に協力した。

2. 平成元年度決算報告

(1) 収支計算書

1989年3月1日～1990年2月28日

(収入の部)

(単位:円)

勘定科目	予算額	決算額	説明
①本部交付金	711,000	711,000	正会員 340名
②その他収入	0	784	賛助会員A 12社 利息収入
③収入合計	711,000	711,784	今期の収入合計
④前期繰越金	153,083	153,083	前期からの繰越金
⑤合計	864,083	864,867	収入合計+前期繰越金

(支出の部)

勘定科目	予算額	決算額	説明
⑥会議費	100,000	119,590	総会費、運営委員会費、記念講演会費 研究講演会を4回開催
⑦研究講演会費	160,000	160,000	4研究部会設置
⑧研究部会費	200,000	200,000	4研究部会設置
⑨見学会費	10,000	10,000	見学会運営費用
⑩通信費	180,000	159,578	ニューズレター5回 発送、事務連絡他
⑪交通費	40,000	74,000	運営委員会交通費
⑫事務費	60,000	38,682	事務消耗品、ニューズレター発送費他
⑬予備費	114,083	0	

⑭支出合計	864,083	761,850	今期の支出合計
⑮当期繰越金(③-⑭)	△153,083	△50,066	今期の収支差額
⑯前期繰越金	153,083	153,083	前期からの繰越金
⑰合計	864,083	864,867	支出合計+当期剰余金+前期繰越金

(2) 貸借対照表

平成2年2月28日現在(単位:円)

借方		貸方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
銀行預金	103,017	前期繰越金	153,083
		当期剰余金	△50,066
総合計	103,017	総合計	103,017

3. 平成2年度事業計画

(1) 総会の開催

日時:平成2年4月21日

会場:神戸商科大学

記念講演:

- 講師 浅居喜代治(大阪工業大学)
演題 ファジー理論と応用の現状
- 講師 坂野明正(日本総合研究所)
演題 S I Sにおける情報処理としてのA Iの位置づけ

(2) 支部大会の開催

支部長が支部大会の開催を必要と判断したとき、運営委員会と相談の上開催する。

(3) 支部研究講演会の開催

- 4回を予定
- 担当主査は、各研究部会の主査が担当する。
- 本部の研究普及委員会主催の「定例講演会」の開催を含む。

(4) 研究部会の開催

- 最適化とその応用研究部会
- 応用確率論研究部会
- 情報システムの戦略的活用研究部会
- 人と先端技術研究部会

(5) 見学会の開催

適当な見学先があれば開催する。

(6) 本部主催のOR企業サロンの関西地区での開催

本部主催の「OR企業サロン」の関西地区での開催に協力する。

4. 平成2年度予算

1990年3月1日～1991年2月28日

(単位：円)

勘定科目	予算案	説明	
(収入の部) 本部交付金 その他収入	792,000 0	正会員 347 名, 賛助会員 15 名. 口. 81,000円増.	
収入合計	792,000	90年度収入合計	
前期繰越金	103,017	前年度より50,066円減少	
合計	895,017	収入合計+前期繰越金	
(支出の部) 会議費	120,000	記念講演謝礼@20,000×2名, 運営委員会費3回分@20,000×2名×4回 @50,000×4研究部会 見学会運営費 ニューズレター発行@30,000×5回, 事務連絡費 運営委員会3回開催相当分 案内状発送作業@6,000×5回, 事務消耗品費 運営準備金	
研究講演会費	160,000		
研究部会費	200,000		
見学会費	10,000		
通信費	160,000		
交通費	75,000		
事務費	45,000		
予備費	125,017		
支出合計	895,017		90年度の支出合計
当期剰余金	0		
合計	895,017		

5. 平成2年度関西支部役員

支部長 青沼龍雄
副支部長 藤井 進
監事 長尾 卯, 木内佳市
運営委員 一森哲男, 茨木俊秀, 太田 宏, 加藤直樹, 三宮信夫, 竹中文男, 徳山博子, 中井 達, 中井暉久, 二宮 清, 野村淳二, 濱田年男, 町原 英, 真庭 功, 米山寛二, 岡本正昭, 木瀬 洋, 三道弘明, 塩出省吾, 田村坦之, 寺岡義伸, 中山弘隆, 福島雅夫
幹事 有馬昌宏

「論文・事例研究」の原稿募集!

ORの特徴は実践にあるといわれています。実践的な応用をぬぎにした理論ということはORでは考えられません。本誌でも以前から会員の皆様からの事例研究の報告をお願いしてきましたが、まだ十分な成果をあげているとはいえません。

「論文・事例研究」は企業、研究所、大学等で実際に行なった事例を論文としてまとめたものを広く会員の皆様に紹介することを目的として作られた欄です。この論文は2人のレフリーによって正式に審査されますが、マネジメント、行政、工学等の広い分野において適用対象の新しさ、適用方法の新しさ、適用範囲の広さ等が論理的、科学的に論じられたものでありますならば、積極的に採用する方針です。皆様のご投稿をお願い申し上げます。

投稿要領: 学会原稿用紙36枚(25字×12行)以内(図・表を含む)
(ワープロ可)投稿先はOR学会事務局OR誌編集委員会宛。

なお、原稿の他コピーを2部添付してください。

レフリー審査の結果、改訂をお願いしたり、採択されない場合があることをご了解ください。また、原稿は、採択・不採択にかかわらず、原本、コピーともお返しできません。(OR誌編集委員会)